

ディアコニア



3 1 5

わたしがあなたがたを愛した
ように、互に愛し合いなさい。
これがわたしの掟である

(ヨハネ福音書15章12節)

日本基督教団隠退教師 佐藤 千郎

先日、私の妻が「今朝のラジオで俳優大竹しのぶさんの若い頃のエピソードが放送されていた」と話してくれました。

演劇でヘレンケラーを取り上げた時、ヘレンケラーを育てたサリバン先生に大竹さんが抜擢されることになったときのこと、障がいのない大竹さんは、耳は聞こえない、目は見えない、話すことも出来ない、その三重苦を理解しようとして、障がい者施設を訪ねます。

その施設には、9歳の三重苦の男の子がいました。大竹さんは、その少年とどのように気持ちを分け合うか、戸惑います。たとえ、握った手の感触が伝わったとしても、相手から言葉が返ってくることはありません。

ふと、思いついたのが、ハグをして心臓と心臓とを重ねることでした。ハグすることによって心臓の鼓動を感じ合うことが出来ると思ったからです。この様子を見ていた施設の職員が、「少年は日ごろめつたに見せることのない笑顔で、大竹さんとハグしていた。気持ちを通じあっていたのです。」と話してくれました。

妻の話聞きながら、産婦人科と小児科とが一緒になって、産婦と胎児の健康管理を行う医療の内容とする、日本初の周産期病院・パルモア病院を設立した小児科医・三宅廉先生の話思い出しました。当時、私は神戸市内の教会の牧師で、三宅先生は教会の長老でもありました。

「赤ちゃんは、胎内でへその緒と繋がって、羊水に守られ、何不自由なく成長していくのですが、ある日突然、母体の産みの苦しみを肌で感じながら、産道をやっとの思いで通り、お腹の外に出て来ます。」

ところが、そこに羊水はなく、へその緒は切られ、今まで経験したことのない空腹が襲ってきます。赤ちゃんはこの時、裏切りや喪失感などが複雑に絡んだ心の傷を負います。しかし、神は、新生児を抱きおっぱいを含ませる母親に奇跡を起こされます。

お乳の位置には心臓があり、赤ちゃんはかつて母の胎内で感じ取っていた心臓の鼓動を、お乳を飲みながら再び感じ、空腹を満たされた赤ちゃんは、こころ癒やされ、自分は見放されたのではない、この人と繋がっていれば大丈夫との信頼を芽生えさせる。この信頼がコミュニケーション能力となり、他者への愛を生み、やがて目に見えない神を信じる心に繋がっていく。お母さん、大丈夫です。しっかりと抱っこして、お乳をあげてください。神さまが育ててくださいます。」

その日、わたしたちは、三宅先生の言葉を思い出し、大竹さんとハグした少年もまた、母親の愛の中で信頼を芽生えさせ、周りの人たちの暖かい心遣い、気遣いの

中で、コミュニケーション能力を身に
着け、それが笑顔を生んだのだろうと、
話し合いました。

そして、その時、わたしの心に浮か
んだのが冒頭の聖句「わたしがあなたが
たを愛したように、互に愛し合いなさい。
これがわたしの掟である」でした。

この言葉は、主イエスが十字架にお
架かりになる前夜、「最後の晩餐」の
席でお話になった告別説教の一節です。

ラジオで流された大竹しのぶさんのエ
ピソードに、このみ言葉を重ねて思い巡
らしている時、ふと、深津文雄先生の「底
点志向」が頭の中を去来しました。多
分、「ディアコニア」の原稿を依頼され、そ
のことが頭にあったからでしょう。

そして、「底点志向」からイメージされ
る景色も、大竹さんと三重苦の少年がハ
グした、その場面と重なるのではないか
と、思えてきたのです。

「互に愛し合いなさい」という勧めは
無前提に言われたものではありません。こ
の言葉の前に、「わたしがあなたがたを

愛したように」と言われています。

聖書の言葉が明言しているように、
私たち一人ひとりには神によって創られた
者です。しかし、この世に放り出された
生身の人間は、へその緒を切られた胎児
と同じ存在であり、成人してもなお抜け
切れない不安や喪失感などと、なんとか
折り合いをつけながら生きています。

しかし、それだけでなく、命は他者
の助けと支援なしに生き延びることの
出来ない、危うい存在であるがゆえに、
助けを待っている存在に他なりません。

だからこそ「わたしがあなたがたを
愛した」との主イエスのみ言葉が、母乳
のように、私たちはすでに神に愛された
存在であり、他者への信頼を芽生えさせ、
他者への愛を生み、さらに目に見えない
存在を信じる心を宿しつつ生きているこ
とを、気づかせてくれるのです。

この気づきの中で改めて「互に愛し合
いなさい」という主イエスの勧めに思いを
巡らすと、大竹さんと三重苦の少年との
ハグの風景が思い出され、これは、主イエ
スの十字架と復活によって明らかにされ

た神の愛に近い風景であり、互に愛し
合う姿の原点とも言えるのではないかと、
私には思えてくるのです。

三重苦とは人と人との身体的つなが
りを断ち切られた姿、「最も小さい者の
一人」(マタイ福音書25章40節)に重なり、
さらにわたしの思いは、「底点志向」
の「点」に至ります。心臓と心臓との重
なり合い、それは、「点」と「点」との重
なり合いでもあります。

深津先生はだれよりも深く「点」を
理解した牧者であり、だれよりも「点」
に信頼を置いて隣人を愛した信仰者
だったのではないのでしょうか。

私は生前の深津先生にお会いしたこ
とはありません。深津先生のイメージは、
法人の理事となつて、入所者やシユヴェス
ター、更に職員方との交わりの中で生ま
れたものですから、わたしの思い込みで
あることを承知しながら、心に浮かぶま
まを書かせていただきました。

(ベテスタ奉仕女母の家・前理事)

小さな群の中から

姉妹また一人逝く

天羽道子

わたしたちの小さな群れから、また一人シユヴェスター・チエコ（眞山知恵子姉）が、去る2月3日、天父の許に召されました。入居していた高齢者ホームから救急搬送されて一週間のことでした。ドクターからは、この下肢動脈閉塞は脳梗塞や心筋梗塞と同じで、突然起こる防ぎようのない病気だと説明されたとのことでした。

「天に一人を増しぬ」
シユヴェスター・チエコも、ベテスダ姉妹会の中からすでに召された4姉や深津牧師夫妻を迎えられたでしょうか。

95年の人生の、中でも献身してからの66年の歩みを終え、信じてやまなかつた天父の許に帰られたことを信じ、永遠の安息を切に祈ります。

チエコ姉は、1960年、ベテスダ奉仕女母の家の奉仕女・第7期入館者3名の一人として母の家に入館し、姉妹共同体の一員になりました。

1年間の基礎訓練を受けて、茂呂塾保育園で1年、いずみ寮で5年、かにた婦人の村で10年、いずみ寮で17年、調理や利用者支援に携わりました。



その後は
いずみ寮
の退所者
自立生活
支援事業
に、シユ

ヴェスター都代と共に非常勤として関わりました。「ご本人たちの自立生活のために、ご本人の納得できるような形に援助していきます。高齢になって一人暮らしが困難になってきた方には、介護認定を受けるお手伝いをして、デイケアなどの社会資源が活用できるようにしたり、病院への付き添いをしたり、十分な医療を受けるために、日常生活の説明や訴えの助言なども大切な援助です」

「毎月、片道2時間位かけて逢いに来るAさん、毎月のように近くのレストラに行くのを楽しみにしているYさん」など一緒にいるシユヴェスター・チエコの言葉、穏やかな姿が目には浮かびます。

築60年ほどの母の家にはエレベーターもなく、高齢者には生活しにくいいため、89歳の時に近くの高齢者ホームに移つての生活を送っていました。

今までシユヴェスター・チエコを支え助けてくださったいずみ寮の職員の方さま、ベテル教会の皆さまには、深く感謝申し上げます。

眞山姉の思い出

佐々木清

私がかにた農園で働いていた時のことです。畑で採れた野菜を調理場へ持つていったときの、眞山姉の「マードーシマシヨ」とか「アラ〜」とか言われた声を思い出します。虫食いだらけの山東菜やトウの立ったほうれん草などを持ち込みましたから。このマ〜とかアラ〜は、拒否とか困ったとかより、考える時間を作る言葉だったようでした。静かで穏やか、贈る言葉は「ありがとうございました」しかありません。（エマオ作業所）

シユヴェスター知恵子 ありがとうございまして

いずみ寮施設長 横田千代子

病院に駆けつけて

2026年1月26日、シユヴェスター知恵子(眞山知恵子姉)が入所されていた高齢者施設から「具合が悪いのでお出でください」と連絡を受け、追って「救急搬送になりました」とのこと。

整形外科のドクターから、左足の付け根の動脈に血栓が出来て血流が悪くなり、足先が壊死していると説明され、回復には大きな手術が必要と告げられました。

「シユヴェスター大丈夫ですか」とお声をかけると、いつものように「ありがとう〜！」と返事をしてくださいました。とにかく痛みを和らげる処置をしていただき、ナースセンターの側のベッドで安心しました。

1月11日に95歳のお誕生日を迎えられていましたので、高齢者の大手術は危険も

伴うと医師から告げられました。

まずはご本人の意思を確認することが難しいので、大沼理事長やシユヴェスター道とも相談をして、手術はしないことにしました。

日々のお見舞いの中で感謝の気持ちを

病院にはいずみ寮の職員、ペテル教会の方々が、次々とお見舞いに来てくださいました。お声をかけると、目を開けようとして、握手をすると「ありがとう〜！」とお返事をしてくださったり。ペテル教会の柳澤牧師もお祈りしてくださり、「握手をしたら握り返してください」と嬉しうに話されておりました。

「握手」はシユヴェスター知恵子の精一杯の感謝の気持ちであったと思います。入所している施設に面会に行くたびに「ありがとう〜！」と力強く握手してくださいました。——

シユヴェスター知恵子が天に召される

病院から急変のお知らせをうけ、大沼理事長と私とで駆けつけました。それはあまりにも突然の事でした。2026年2月3日、18時15分、シユヴェスター知恵

子は天に召されたのです。亡くなられる数十分前に、シユヴェスター知恵子の耳元に携帯電話を置き、シユヴェスター道が声をかけてくださいました。その声をしっかりと聴かれていたと信じます。

本当に安らかに、微笑みを浮かべていらつしやるかのようなお顔でした。

沢山の「時」を

共に歩ませていただきました

私がシユヴェスター知恵子に出会ったのは1984年でした。制服姿の凛とした姿が思い出されます。シユヴェスター知恵子が50代の時でした。共に利用者支援をしてきました。40名に近い女性たちの支援を共にし、交わりの時を持ってましたことを心より感謝申し上げます。

最近では、入所されている施設に面会にいった時、大好きなスイカやイチゴを美味しそうに召しあげていましたが、そんな姿ももう見られなくなりました。度々面会に行ってくださいっていたペテル教会の坂口さんも同じお気持ちだと思います。

シユヴェスター知恵子、ありがとうございまして。ずっと忘れません。

きみまも@歌舞伎町について

ベテスタダ奉仕女母の家評議員

森田幸次

「きみまも@歌舞伎町」は東京都の相談窓口です。新宿の「トー横」と呼ばれる地域で居場所を求める若い世代の悩みに対して、専門の相談員がサポートします。2024年5月31日にオープンした次のような場所です。

きみまも@歌舞伎町の概要

安全な相談場所——歌舞伎町周辺の若者たちに安全で、安心して相談できる場所を提供しています。

相談サポート——軽食や無料WiFi、充電器などがあり、ひと休みしながら信頼できる人と話せます。

セーフティネット——若者の悩みや問題について。行政機関や支援団体とともに解決を図ります。

対象者——未成年から39歳までの青少年・若者」（家族の相談も可能）

利用時間——火～土曜日の15時～21時（年末年始、祝日を除く）

スタッフ——社会福祉士や心理士、

看護師などの相談員が対応

場所——新宿区歌舞伎町2-44-1

東京都健康プラザハイジア17階



若者たちが抱えている課題

・家庭や学校のトラブルにより、居場所を見つけないことができない。

・仕事や住まいが定まらず、安定した暮らしができていない。

・性被害や金銭トラブル、暴力など、犯罪等のリスクにさらされている。

・生きづらさを抱えオーバードーズ（市販薬の乱用）やリストカットをしている。

「トー横」問題とは

・コロナ禍の頃から、東京都の有数の繁華街である新宿歌舞伎町エリアに多くの青少年・若者がたむろし、メディア等によって「トー横キッズ」等と称されるようになる。

・そうした若い世代が、自死・自傷や性被害、薬物濫用、金銭、暴力の犯罪・トラブルに巻き込まれる例が相次ぐことで社会問題になる。

・彼らの集まる動機は「SNSの楽しいな雰囲気引かれた」、「自身や家族の問題から『居場所』を求めている」など様々だが、悪意を持った大人の介在によつて犯罪等に発展する例も多い。

・それに対して、警察による一斉補導や摘発等も行われているものの、若い世代

が関わる犯罪・トラブルは後を絶たず、彼らが巻き込まれないための取り組みや、抱える課題の解決が必要である。

若い世代が巻き込まれる犯罪・トラブル

・ 飲酒・喫煙・ODなど——路上における未成年の飲酒・喫煙や、市販薬・処方薬の濫用（OD）が常態化している。

・ 飛び降り・自傷——ホテルから少年男女が飛び降り死亡。リストカットなどの自傷行為が多発している。

・ 金銭トラブル・暴力——不正不当な借金や金銭の要求。貸借等から暴力沙汰に発展することもある。

・ 児童買春・性被害——未成年とのみだらな行為で男を逮捕。「案件」と称する売春行為も多発している。

・ 家出・誘拐——未成年者が保護者の許可なく連泊。悪意ある大人による声かけ、連れ去りなどがある。

・ 悪質ホスト・コンカフェ——売掛金等で高額の借金を負う被害。悪条件労働で搾取されている者も多くなる。

東京都の対策

第33期東京都青少年問題協議会の答申に基づいて、左記の3つの施策を柱として、対策を実施している。

① 青少年・若者向け相談窓口である「きみまも@歌舞伎町」の運営

② 犯罪被害者等の防止に向けた各種普及啓発等

③ 行政警察・民間支援機関との連携

きみまも@歌舞伎町の機能

① 歌舞伎町周辺における声掛け——地域の民間団体等とも連携

② ひと息つけるフリースペースの提供

——軽食、無料Wi-Fi、ゲーム等

③ 社会福祉士等による対面相談。フリースペース個室で実施。雑談から、相談に結びつくケースも多い。



④ 課題解決に向けた専門機関へのつながり——公的機関の他、NPO等も。就労については、ハローワークだけでなく警備会社や介護事業者を直接紹介することも多い。これも雑談から発展するケースが多い。



⑤ トー横に集まる若い世代の実態把握——雑談からの情報収集が多い。

⑥ 犯罪被害等の防止（啓発）——加害・被害双方の視点から支援する。

*リラククスできるフリースペースに卓球台・ピアノ・読み物もあります。

子どもが育つ園庭作り

伊藤智恵

2024年の9月、愛媛県東温市にあるむぎの穂保育園園長の出原大先生が園内の研修に来てくださいました。

その折、先生が何気に言われた「茂呂塾さんの園庭の木は弱ってはるね」との言葉に、これまで私たちに、多くの恵みを与えてくれていた木々が必死で生きている状態と知り、大変ショックを受けました。そこで園庭を整えよう！と職員一同が動き出したのです。

まず取り組んだことは、今の木の現状を子どもたちに分かりやすく伝えること



でした。絵を得意とする職員が「もろじゅくのき」という水彩画を描き、語りが上手な職員が、その絵をもとにお話をする時間を設けました。

子どもたちは真剣な表情で耳を傾け、「木が弱っていること」「みんなで大切にしていきたいこと」をそれぞれ感じ取ってくれたように思います。

2024年10月、土曜日の午後、卒園、在園の方と「園庭を整える会を」を実施しました。土を耕し、種を蒔きました。みんなで園庭に手を入れる時間は、これまで当たり前にあつた園庭を、改めて見つめ直すきっかけとなりました。その後、蒔いた種が芽を出し、11月には園として初めて「樹木医」をお願いをし、園庭にある日本の木の診断を受けました。人間

の検査で使われているMRIのような装置を付け、一本一本丁寧に確認していただきました。診断の結果は「年数が経っているものの、倒木の危険はなく、自然な形で成長しています」と。その言葉を聞き、職員一同、胸を撫でおろしたことを今でもよく覚えていきます。



それから1年が過ぎた頃、固定遊具の定期点検において、ジャングルジムと雲梯が老朽化もあり、安全基準から外れていることが分かり、今後、撤去する方向へと話が進みましたが、同時に水はけの悪さや、砂が道路に流れてしまうなど園庭の一部だけではなく全体を見直しする必要を感じ、園長を含めた運営メンバーを募り、2025年8月から

本格的な話し合いが始まりました。

まず、私たちが取り組んだことは、「園庭長期計画」を立てることでした。日程を決めること、業者の選定、保育者同士の話し合いの進め方、園庭を改良するにあたり課題をどのように解決していくのか等、限られた時間の中で考えることは多岐に渡りました。

1回目の話し合いは、保育者にアンケートをとりました。出来る、出来ないは考えず、それぞれワクワクしながら理想の園庭を思い描いてもらいました。そのアンケートをも

とに、グループに分かれて自由にアイデアを出し合うブレインストーミングの時間を作り、互いの意見を



否定せず、全ての意見を受け止めながら、思い思いのイメージを出し合い、自由にアイデアを広げる時間を共有することができました。

特に保育に影響がある大きい課題は

「プールを継続していくか」「乗り物を今後どうしていくか」「運動会をどのような形で進めていくか」

の3点について、後日4グループに分かれてグループディスカッションをしました。



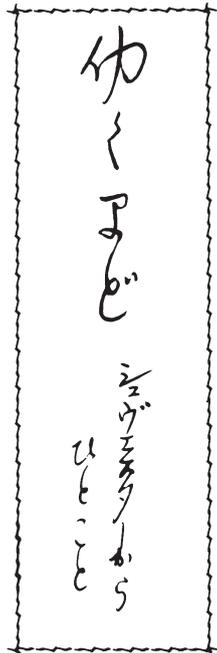
①プールについて。年々、猛暑が長く続

き、庭で遊ぶことが難しい状況の中でも、茂呂塾保育園の庭は、木々が生い茂り、日陰が多いという恵まれた環境ということ。そのおかげで、水温や気温が守られ、いつか入れなくなる日が来るかもしれないけれど、それまでは子どもたちに存分にプール遊びを経験させたい願いはどの保育者も同じでした。②乗り物について。園庭がない保育園も多い中、本当に恵まれている茂呂塾。今後は、徐々に園庭の状況に合わせて、考えていくこと

にしました。③運動会について。茂呂塾は見せる運動会ではなく、日々、楽しむ運動会を大切にしてきました。30年以上続いているパン食い競争は、子どもだけではなく、保護者、職員も自然に笑顔になる、楽しい時間でもあります。茂呂塾が大切にしてきたことは継続し、その上で、環境の変化に柔軟に対応しながら、この園庭で出来ることをこれから考えていこうと話し合いました。そして、私たちの思いを丁寧に汲み取り、一緒に作り上げる思いの業者との出会いがあり、また、1歩前進しました。

園庭改良を通して改めて感じたことは、安全性や機能性を整えることは大切ですが、その土台には、「この環境で、子どもたちにどんな経験をして欲しいのか」という保育者一人ひとりの思いがあります。

話し合いを重ねる中で、私たち自身の保育を見つめ直し、保育の意味を考える大切な時間だったように思います。茂呂塾保育園の園庭づくりは、まだまだこれからです。これからもこの園庭を大切に育てていきたいと思えます。



他者を思うことのできる思いとか立場をお互いに持つことによつて、世界は違ってくるとうふうにいる。

1月の初め、シユヴェスター道と一緒に小さなプレゼントを持って、相浜ガーデンに暮らしているシユヴェスター歌子とシユヴェスター都代を訪問しました。

ドキュメンタリー映画「医の倫理と戦争」（山本圭介監督作品）を、ご覧になられましたでしょうか。

若い方たちに、ぜひぜひそういうお一人になつていただきたい」と、映画の終わりの言葉として語っています。

「今もなお、残酷な形で多くの市民が殺されているのにもかかわらず、現代の世界はそれとめることができないという事実」

また、1月3日ポレポレ東中野での上映後トークイベントにも登壇してきました。

（天羽道子）

「戦争に備えるのではなく、医療者は戦争をおこなわないことに全力を挙げるべきこと」を届けたいと、私もお世話になっている花の谷クリニック院長の伊藤真美医師が企画された映画です。

漸くに書き終へほつと冬の夜

古き良き習ひに学び湯気立てぬ

この映画の中で「かにた婦人の村」も紹介され、インタビューを受けた五十嵐施設長と私の言葉も紹介されています。

緩やかな坂道しばし冬の蝶

帰り花生かさされしの不思議さよ

私は満州に生まれ育つた者として、満州国に対する我が国の加害の歴史を知つて、心を痛めたことを語り、「平和を作り出すつていうことは、要するに自分自身を中心に生きることではなく、他者を顧みる、

覚悟して決めし人生木の葉髪

（植木道子）

私たちがの心もひとつになり、「ふるさと」を歌つておしまい。音楽つてやっぱり良いなあと思う時間でした。

（塩川記）

（桜庭 歌子）

（小川 都代）

★映画「医の倫理と戦争」は、現在も全国のミニシアターで上映されています。題名で検索すれば調べられますのでぜひお出かけください。

クリスマス賛助金、臨時寄附、
ありがとうございます

青木清子 赤石二三子 赤山孝子 秋山翹
一朝倉康仁 安里美代子 浅野康子 浅野
容子 阿原弘 新井よう子 安東優 五十嵐
直美 池宜子 池田直子 石垣茂夫 石田美
鈴 石塚八重 和泉憲子 市川隆 市澤裕実
市橋みはる 伊藤隆史 伊藤瑞男・眞子
井上京子 井上博志 今井一幸・薫 今井
佳代 今井直子 植木道子 上杉洋子 上野
貢一 内田ひたき 梅崎久枝 大沢真理子
大曾根聡子 大槻圭史 大伴栄子 大西恵
子 大野高志 大浜亜紀 岡崎信治 小方成
二 岡田知子 奥村益良 小原洋一 掛札逸
美 加藤明彦 加藤大 加藤美都子 加藤裕
一金 岡飛鳥 金澤朋広 金谷千賀子 金田
和子 加納和寛 川口博司 木内一夫 岸川
洋治・陽子 北村慶次 木下教子 木下真
由美 木下未果子 木下裕子 清沢紀久 久
保川雅子 熊本一美 黒川裕子 桑原亜子
懸洋一 腰山佳子 小関忠 小谷志保 後藤
京子 後藤信子 小西美智子 小林勝彦 小
林典子 コヤマうらら 近藤眞子 斎藤仁

一 齋藤なとみ 酒井忍 坂口節子 坂本順
子 佐々木真輝 佐藤順子 佐藤千郎・充
子 篠川栄一 柴山操 渋谷弥一 島田百合
子 清水佳子 新宮昇 神代英理 菅宮泰代
鈴木和男・奈津子 鈴木節生 関本郁子
芹澤利奈 高木千賀子 高橋博・美佐子
高橋真人 高橋路子 高柳昌久 瀧田正亮
田口義臣 竹内拓 竹谷敏朗 立野陽 田中
恵 玉城吉重 田丸まり子 田村毅朗 津島
チイ子 土屋周平 筒井克子 坪井明子 坪
野吉孝・あや 寺嶋明子 土井倫子 富田
裕 富室磨致子 中林典子 中村多恵子 中
邑洋子 中村良子 中山勝也・雅子 西辻
郁之 西村文子 丹羽誠 貫井大輔 野世博
江 野村和子 羽賀美佐子 萩原永子 橋本
治 長谷川寿美子 服部能幸 濱田辰雄・
美恵子 林佳慧 原和喜 原田冬樹 東島昌
子 東経行 東真行 比嘉若菜 氷川英俊 左
海正幸 百武千恵子 平川寛子 平手光明
平松秀一 平山嘉繁 深谷美歌子 深谷由
美子 福本和代 伏木喬子 藤木謙一 藤田
雅子 藤巻和司 藤巻契司 藤巻ひとみ 藤
原由美子 船津節子 文屋正道 保科光紀
星野智子 堀内由紀 真下弥生 松下光雄

松本清文 三浦恒美 満尾伸子 三露久男
宮崎康久 宮之原光枝 村松一恵 初井道
誉 森田富美子 森史子 森眞弓 八重樫真
理子 柳澤宗光 柳谷知之 矢野輝子 山上
洋子 山崎俊子 山田辰彦 山田真規子 山
本多賀世 山本洋子 余郷志津子 横田碩
子 横野朝彦 吉井祐美子 吉田眞 吉田や
す子 若山豊 脇坂ゆかり 渡瀬絢美 渡辺
きぬよ 渡辺茂子 渡辺進 渡邊礼子 和田
芳子
青山学院初等部 金沢めぐみ幼稚園 金
城学院 犀川のぞみ保育園 自由学園南沢
会 頌栄女子学院 聖学院小学校 原宿幼
稚園 フェリス女学院中学校・高等学校
普連土学園中学校・高等学校 宗教委員
会 むこがわ幼稚園 茂呂塾保育園 ライ
シヤワー学園（日本語学校）
阿佐ヶ谷教会 大泉ベテル教会 鎌倉
雪ノ下教会 上富坂教会 軽井沢追分教会
経堂北教会 敬和学園大学キリスト教
育委会 小金教会 婦人会 埼玉新生教会 女
性の会 堺教会 佐倉教会 清水ヶ丘教会
信州教会 新津田沼教会 新九子教会 祖
師谷教会 田浦教会 婦人会 辻堂教会 新

居浜西部教会 西千葉教会 原宿教会 広

尾教会 松戸教会 三田教会 水戸中央教

会 翠ヶ丘教会 弓町本郷教会 四街道教

会 霊南坂教会 (敬称略)

(25年10月31日～26年2月20日分)

皆様からのご寄付により、かいた婦人の村への経営支援も少してできるようになりましたが、運営に必要な資金不足は続いております。

度々の措置費支給改善要望に対し、厚労省からの具体的な動きはありません。

この課題も、皆様のお祈りとお支えにより、解決の道が開かれますよう心より願っています。

お知らせ

★訃報

去る2月3日、奉仕女眞山知恵子姉(シヴヴェスター知恵子)が左下肢動脈閉塞性疾患の為、95歳で召天されました。葬儀は2月9日大泉ベテル教会にて執り行われました。

永年のお支えとお交わりを感謝しま

す。

★理事会報告

◎第266回理事会 25年11月22日

於 法人本部(テレビ会議併用)

【報告】

第一号 業務執行理事報告

【審議】

第一号 2025年度第一次補正予算

第二号 今後の理事会並びに評議員会開催の件

第三号 経理規程改定の件

全員の賛成で原案通り議決

◎第267理事会 25年12月25日

決議の省略(書面)による議決

【審議】

第一号 クラウドファンディングで集めた寄付金によるかいた婦人の村の旧作業棟リノベーション事業の実施、業者選定並びに工事契約の承認の件

理事の同意・監事の確認により議決

◎第268回理事会 26年2月16日

【報告】

第一号 業務執行理事報告

第二号 かいた婦人の村の現行の措置

費事務費支給に伴う経営危機状況と今後の改善策に関する法人としての対応について

【審議】

第一号 2025年度第2次補正予算

第二号 経理規程改定の件

第三号 その他

全員の賛成で原案通り議決

編集後記

主の大きな御名を讃美いたします。法人の歩みと施設運営が、皆様のお祈りとご支援により支えられていることを重ねて心より感謝申し上げます。(大沼)

2026年3月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座0019002138164